平成26年度
佐賀県こどもUD作品コンクール
入賞作品集

三世代みんなが安心して暮らせるように。

佐賀は、
ユニバーサルデザイン

佐賀県
http://www.pref.saga.lg.jp/

入賞者一覧

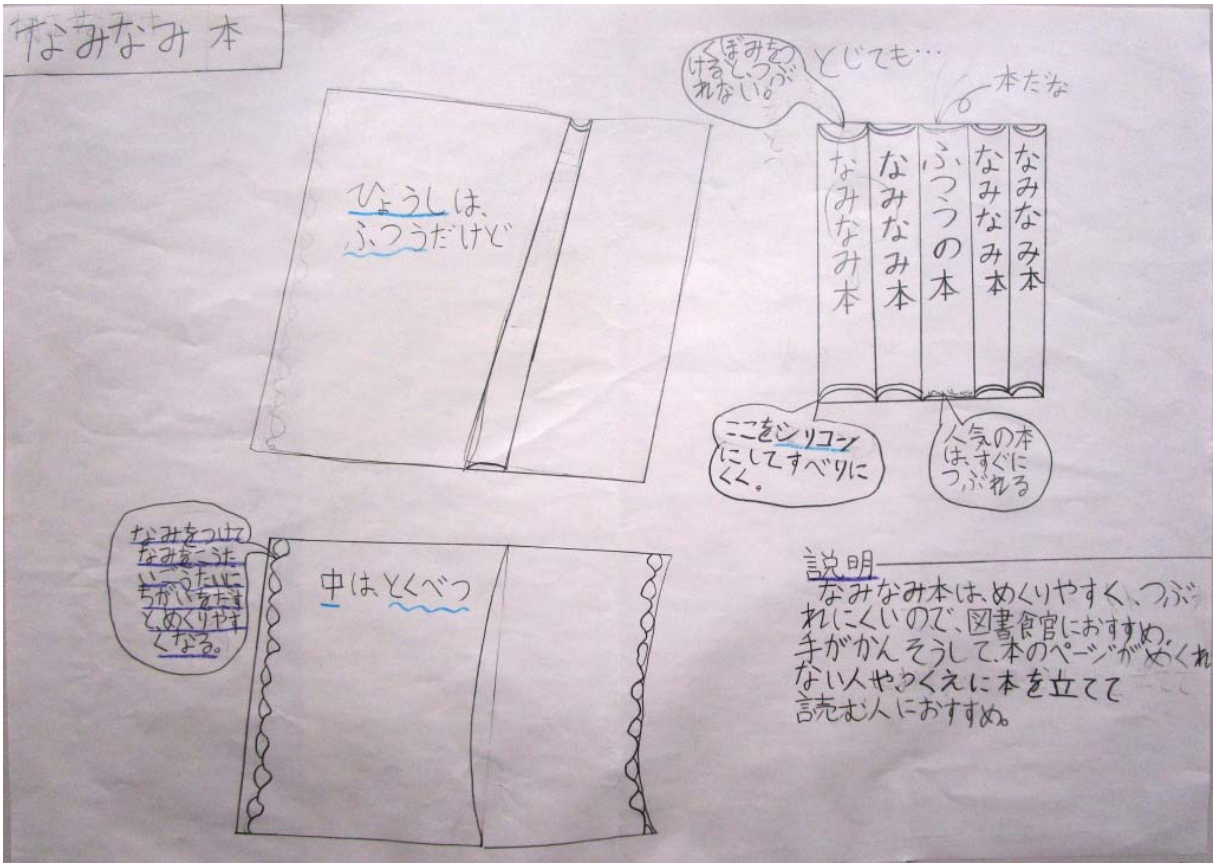
区分	部門	学校	学年	氏名	作品名	頁
大賞（知事賞）	アイディア作品	鹿島市立七浦小学校	5 年	柳瀬　愛	なみなみ本	1
		鳥栖市立鳥栖西中学校	2 年	松尾　晴音	らくらくカート	2
		佐賀県立小城高等学校	1 年	岸川　亜未	easy W.C.	3
	ポスター・壁新聞	鳥栖市立鳥栖北小学校	4 年	奈良　つぐみ 鈴木　桃香 村岡　優羽 大石　玲美	鳥栖市の UD はやさしさがいっぱい！	4
		小城市立小城中学校	1 年	江頭　萌花	学ぶ！福祉体験	5
	作　文	佐賀市立北川副小学校	4 年	松下　翠莉	ちがうからこそ必要	6
		佐賀市立城南中学校	3 年	川原　嘉仁	みんなが笑顔に	7
優秀賞	アイディア作品	鹿島市立七浦小学校	5 年	中野　隼輔	安全うで時計	8
		玄海町立値賀小学校	4 年	野崎　悦継	パーフェクト種うめ機	9
		鳥栖市立鳥栖西中学校	2 年	中島　朋美	安心らくらくコンパス	10
		佐賀県立唐津東中学校	1 年	堀川　実紀	安全テープカッター	11
		佐賀県立有田工業高等学校	1 年	稲村　珠代	てんとう君	12
		佐賀県立小城高等学校	1 年	辻　采可	針収納ピン	13
	ポスター・壁新聞	鳥栖市立鳥栖北小学校	4 年	長　采美 船津　彩和 延　杏月那	町の UD	14
		佐賀市立北川副小学校	4 年	濵﨑　陽菜 原田　莉帆	学校の UD 新聞	15
		小城市立小城中学校	1 年	髙取　優花	初めての福祉体験	16
		佐賀県立唐津東中学校	1 年	渡邊　鈴夏	誰もが快適に暮らせるために	17
		佐賀県立唐津南高等学校	2 年	松本　くるみ 寺田　未来	唐津南高の UD について	18
		佐賀県立唐津南高等学校	2 年	有村　夏季	ユニバーサルデザインについて	19

区分	部門	学校	学年	氏名	作品名	頁
	作　文	伊万里市立波多津東小学校	4 年	畑山　千寿	世界でつながる UD	20
		玄海町立値賀小学校	4 年	小川　優羽	わたしたちのユニバーサルデザイン	21
		伊万里市立波多津東小学校	3 年	井本　匡亮	みんなの UD	22
		佐賀県立唐津東中学校	2 年	松尾　由宇	「ユニバーサルデザイン」を助ける	23
		佐賀市立城南中学校	3 年	山之口　遥菜	身の周りにあるユニバーサルデザイン	24
		佐賀県立唐津南高等学校	2 年	水鳥川　沙希	UD とは	25

知 事 賞

「なみなみ本」

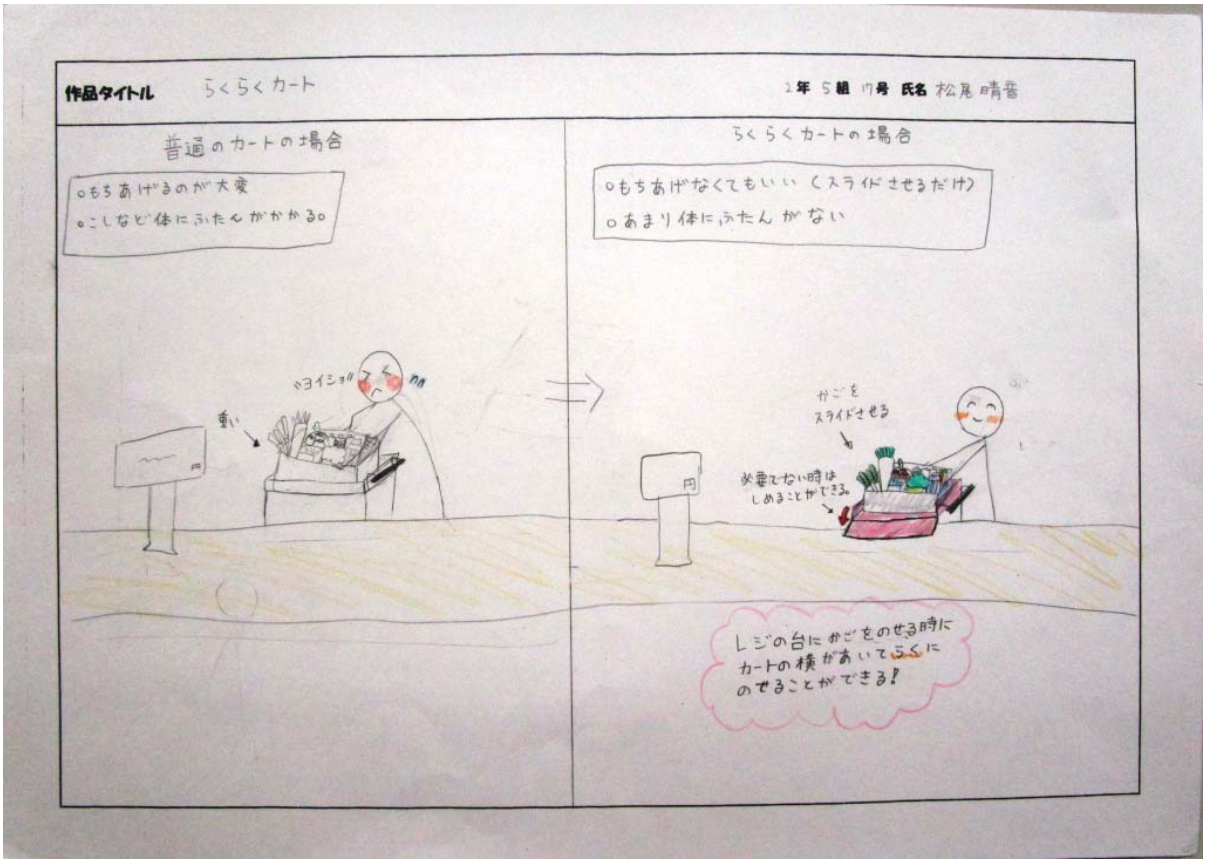
鹿島市立七浦小学校　5年：柳瀬（やなぎせ）　愛（あい）



知 事 賞

「らくらくカート」

鳥栖市立鳥栖西中学校　2年：松尾（まつお）　晴音（はるね）



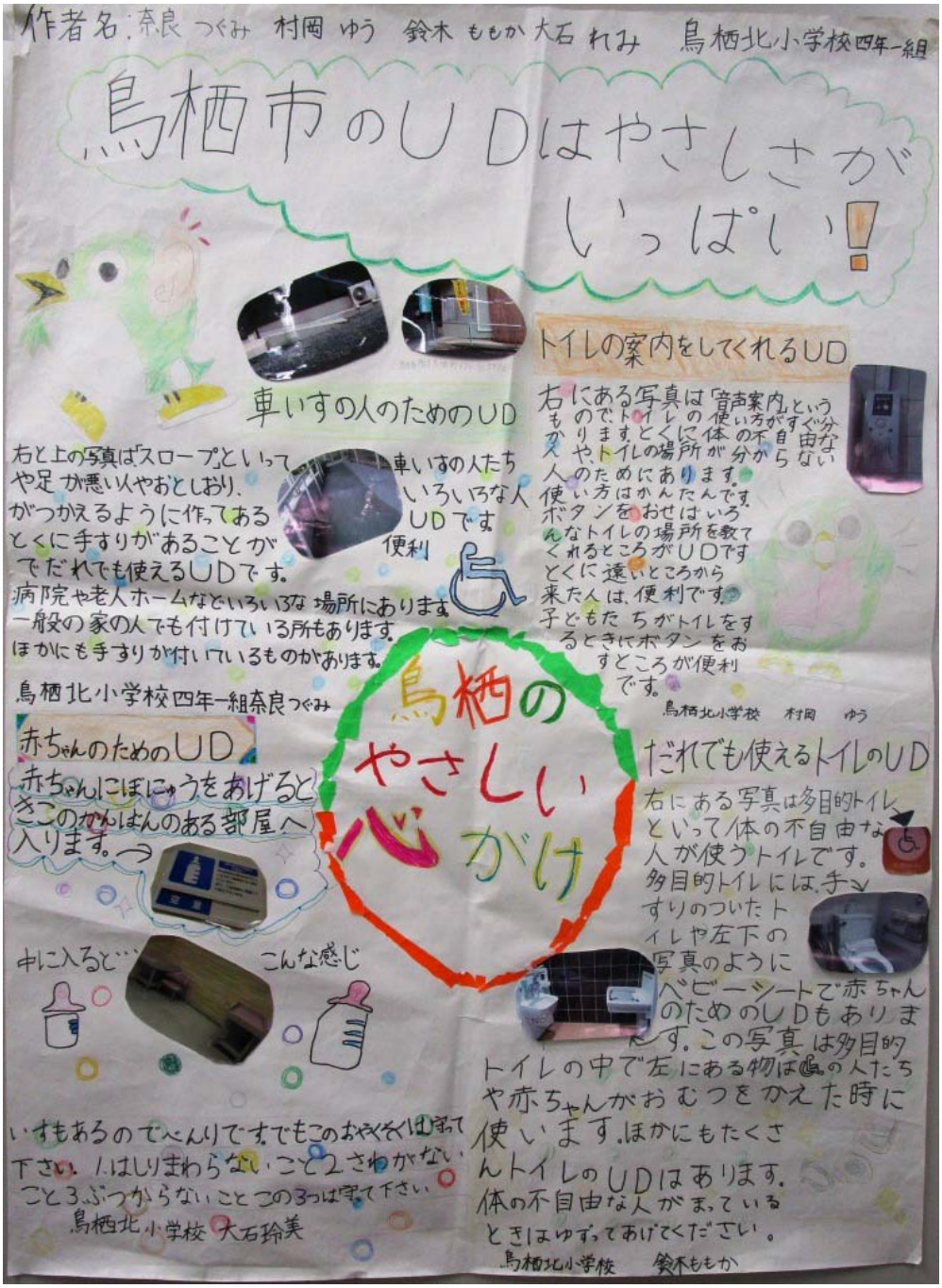
知 事 賞　「easy W.C.」

佐賀県立小城高等学校　1年:岸川（きしかわ） 亜未（あみ）

知 事 賞

「鳥栖市のUDはやさしさがいっぱい！」

鳥栖市立鳥栖北小学校　4年：奈良（なら）　つぐみ
鈴木（すずき）　桃香（ももか）
村岡（むらおか）　優羽（ゆう）
大石（おおいし）　玲美（れみ）



知 事 賞

「学ぶ！福祉体験」

小城市立小城中学校　１年：江頭（えがしら）　萌花（ほのか）

知 事 賞

「ちがうからこそ必要」

佐賀市立北川副小学校　4年:松下（まつした）　翠莉（みどり）

　私は、ユニバーサルデザインのことを調べて、私だけが良くても、他の人が不自由・不便だと、それは、「ユニバーサルデザイン」とは、言うことが出来ないということが、分かりました。私も、友達も、足や目・耳の不自由な人も、にんぷさんも、お年よりも、車いすに乗っている人も、みんながくらしやすい町を作る事が大切だと思います。

　ユニバーサルデザインには、例えば、手の小さい子どもやにぎる力の弱くなったお年よりの人にもにぎりやすくなっているペットボトル、歩行がむずかしい人や、車の乗りおりがむずかしい人のための駐車場・子育てをしている人のための公共トイレなど色々なものがある事が分かりました。「みんなちがってみんないい」は、まさに「ユニバーサルデザイン」だと思います。

　私は、以前、車いすに乗っている人が、ペットボトルを拾おうとしている所を見かけたことがあります。いっしょうけんめい拾おうとしているのですが、なかなか拾えません。その時、近くを通った男の人が、

「大丈夫ですか。」

と言って落ちていたペットボトルを拾って手助けをしていました。見知らぬ人を助けて、すごいと思いました。私もそういう人に、なりたいです。私は人間は、パズルの様なものだと思います。パズルの欠けている部分を他の人が助けるというように、人は、みんな欠けている所があるので、それを、他の人が助けるということが、「ユニバーサルデザイン」ということでは、ないでしょうか。みんなちがうからこそ、苦手なことや困っていることを、助け合うのは、とても大切なことだと思います。

　来年の二月完成予定の新校舎にも、車いすの人や、足の不自由な人、地いきの人が安心・安全に使えるエレベーターや自動ドアなどのユニバーサルデザインがあると聞き完成がとても楽しみです。

　ユニバーサルデザインの新校舎は、どんな人でもみんなが勉強しやすい学校、地いきの人までみんなが好きになれる学校になりそうだな、と今からワクワクします。

　最後に、みんなが笑顔になるためには、ユニバーサルデザインにたよるだけでなく、私達みんなが、やさしい心で助け合うことが大切だということも分かりました。これからは、もっともっと助け合って、みんなが笑顔の北川副小学校にしていきたいです。

知事賞

「みんなが笑顔に」

佐賀市立城南中学校　3年:川原（かわはら）　嘉仁（よしと）

僕にとってユニバーサルデザインとは、そこで暮らしているみんなが笑顔になるために、必要不可欠なものだと思います。例えば、街を歩く目が不自由な方々のために点字ブロックがあったり、信号の変化を教えてくれる音が鳴る信号機があったりと、今となっては、絶対になくてはなりません。

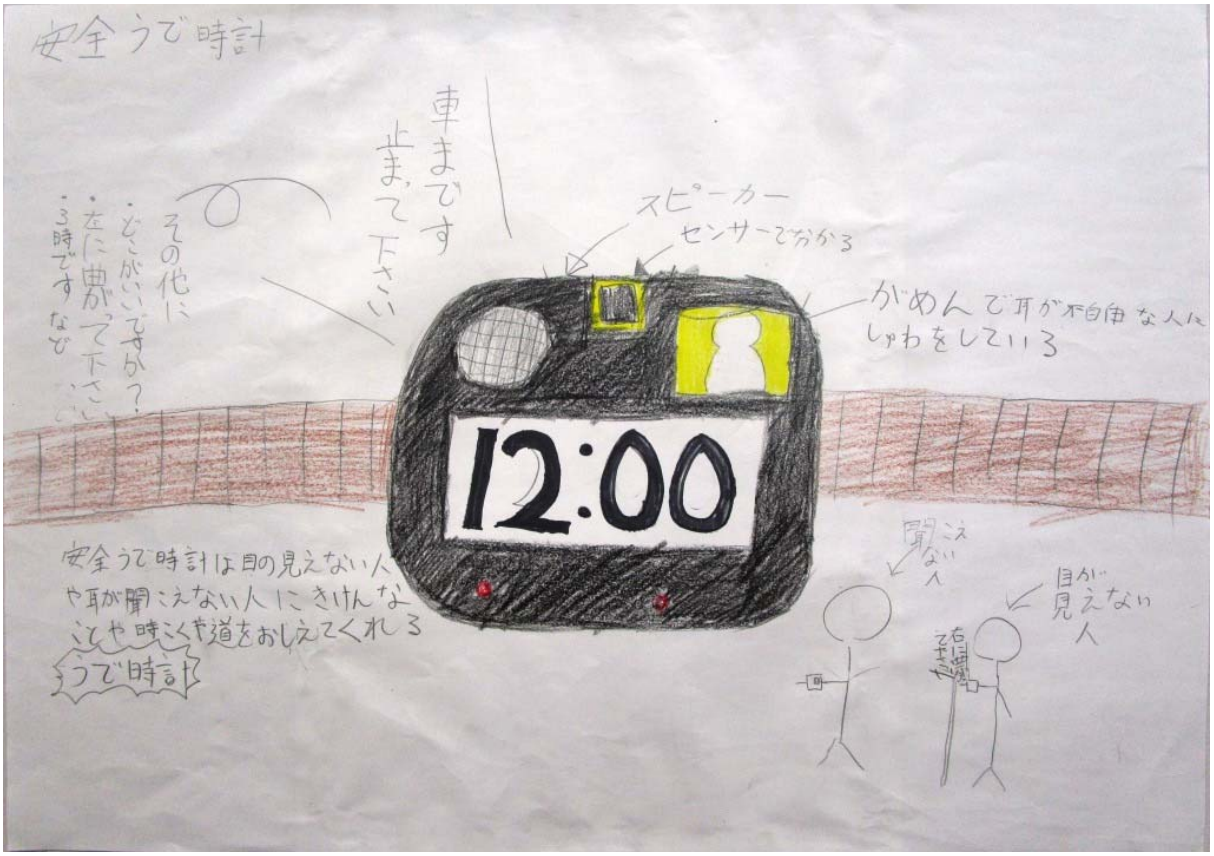
僕は、この前学校であった疑似体験で、アイマスクを着用し、目が見えないということを体験しました。目の前が真っくらだという恐怖と、どこになにがあるのかわからない、そして自分がどこにいるのかわからないという恐怖を味わいました。それは、とてつもなくこわかったです。

しかし、その恐怖をなくすことはできません。でも、少なくして、目が見えない人の負担を減らすことはできます。その手段の一つとして、ユニバーサルデザインがあると思います。

また、ユニバーサルデザインには、その人をうれしくする能力があると思います。例えば、車いすに座ったままでのれる車があります。その車にはじめて乗った人は、「車に乗ることができる」ということをとてもうれしく感じると思います。このように、ユニバーサルデザインには、人に喜びを与えることもできると思います。そして何より、ユニバーサルデザインのすばらしい点は、今まで体が不自由なせいで、できなかったことが、できるようになるという点です。例えば、ユニバーサルデザインではない自動販売機で飲み物を買う場合、足が不自由で車いすに乗っている人は、付きそいの人に買ってもらうしかありません。しかし、ユニバーサルデザインの自動販売機では、ボタンが低いため、自分の手で買うことができます。このように、ユニバーサルデザインには、その人の負担を減らす、そして喜びを与え、自分のことは自分でできるようになる、という良い点があります。そして、そのことがその人の精神的な負担をやわらげるのだと思います。ユニバーサルデザインには、ただ便利なだけでなく、その人を笑顔にする力があります。もっとユニバーサルデザインを活用して、みんなが笑顔で過ごせる町をつくっていきたいです。

優 秀 賞　「安全うで時計」

鹿島市立七浦小学校　5年：中野（なかの）　隼輔（しゅんすけ）

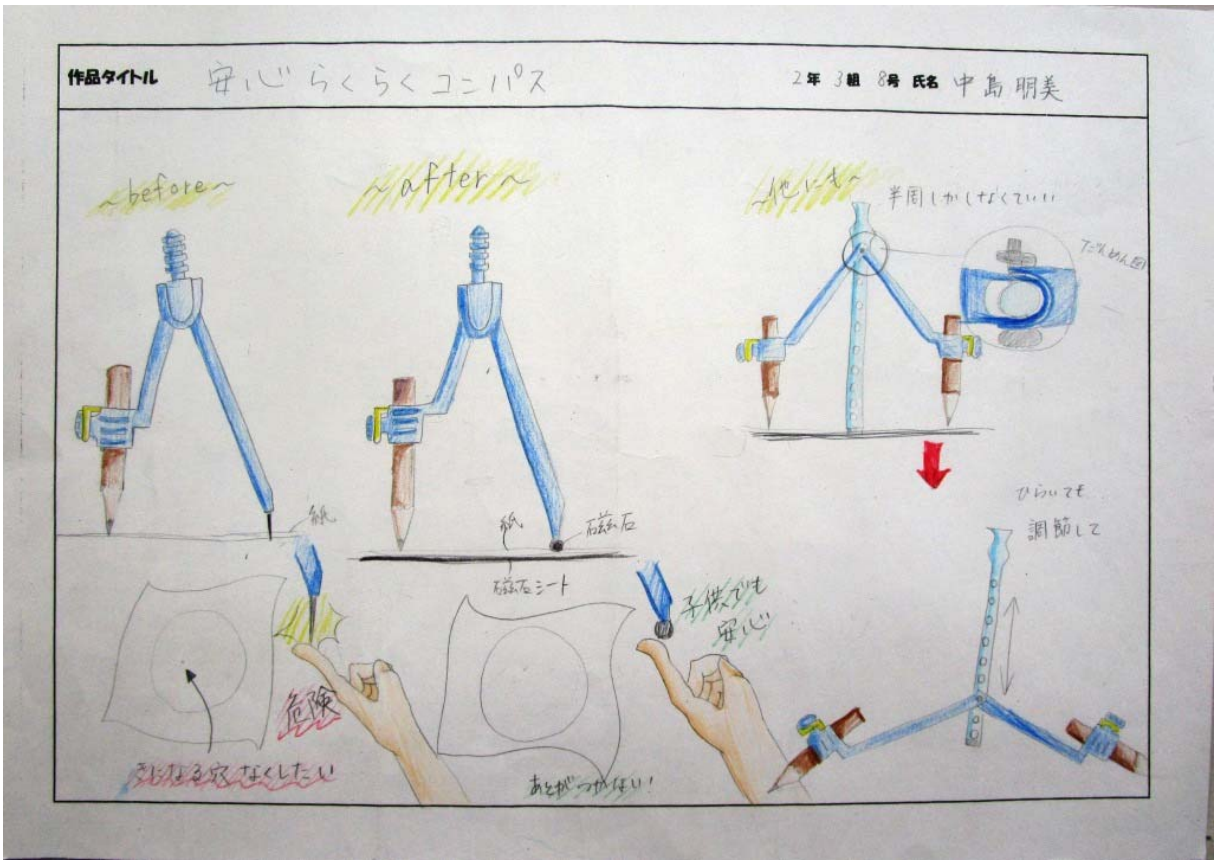


優 秀 賞　「パーフェクト種うめ機」

玄海町立値賀小学校　4年：野崎（のざき）　悦継（よしつぐ）

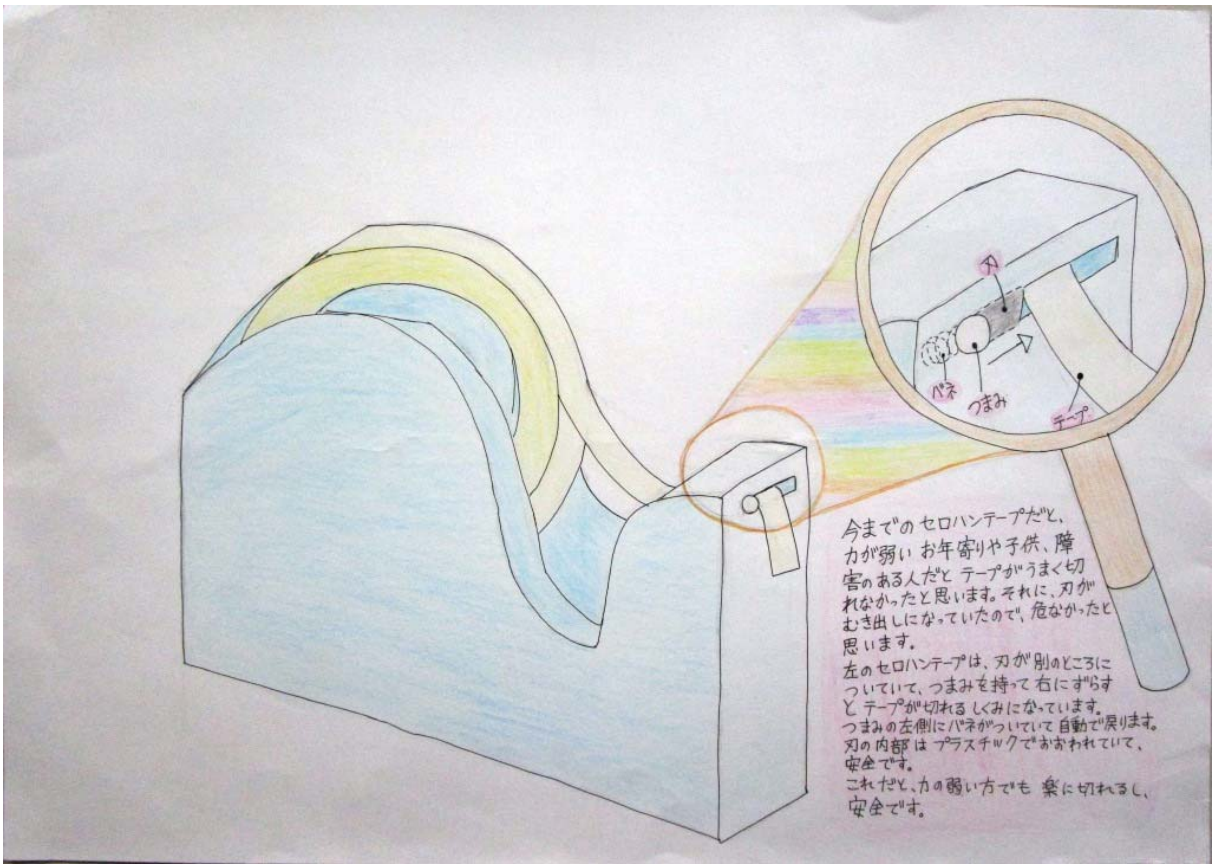
優 秀 賞　「安心らくらくコンパス」

鳥栖市立鳥栖西中学校 2年：中島（なかしま） 朋美（ともみ）



優 秀 賞　「安全テープカッター」

佐賀県立唐津東中学校　1年：堀川（ほりかわ）　実紀（みのり）

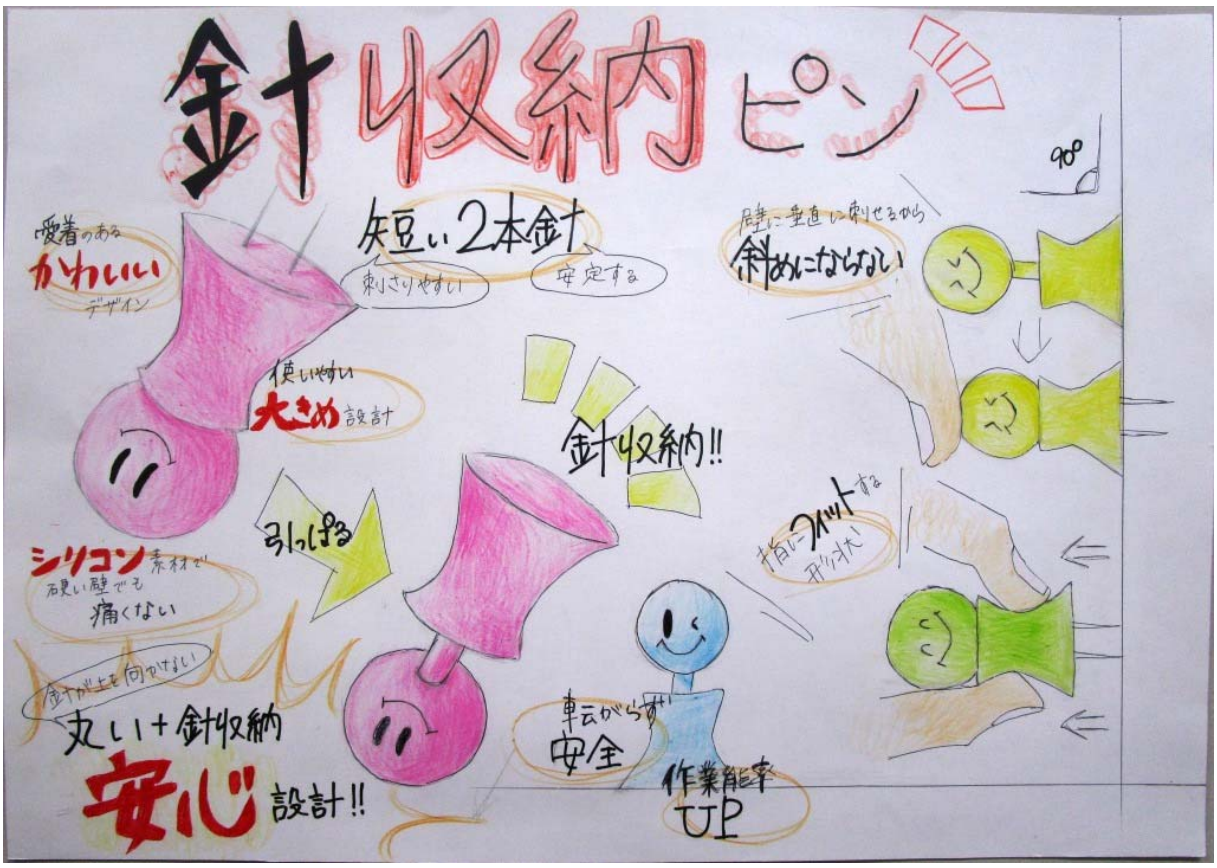


優 秀 賞　「てんとう君」

佐賀県立有田工業高等学校　1年:稲村（いなむら）　珠代（たまよ）

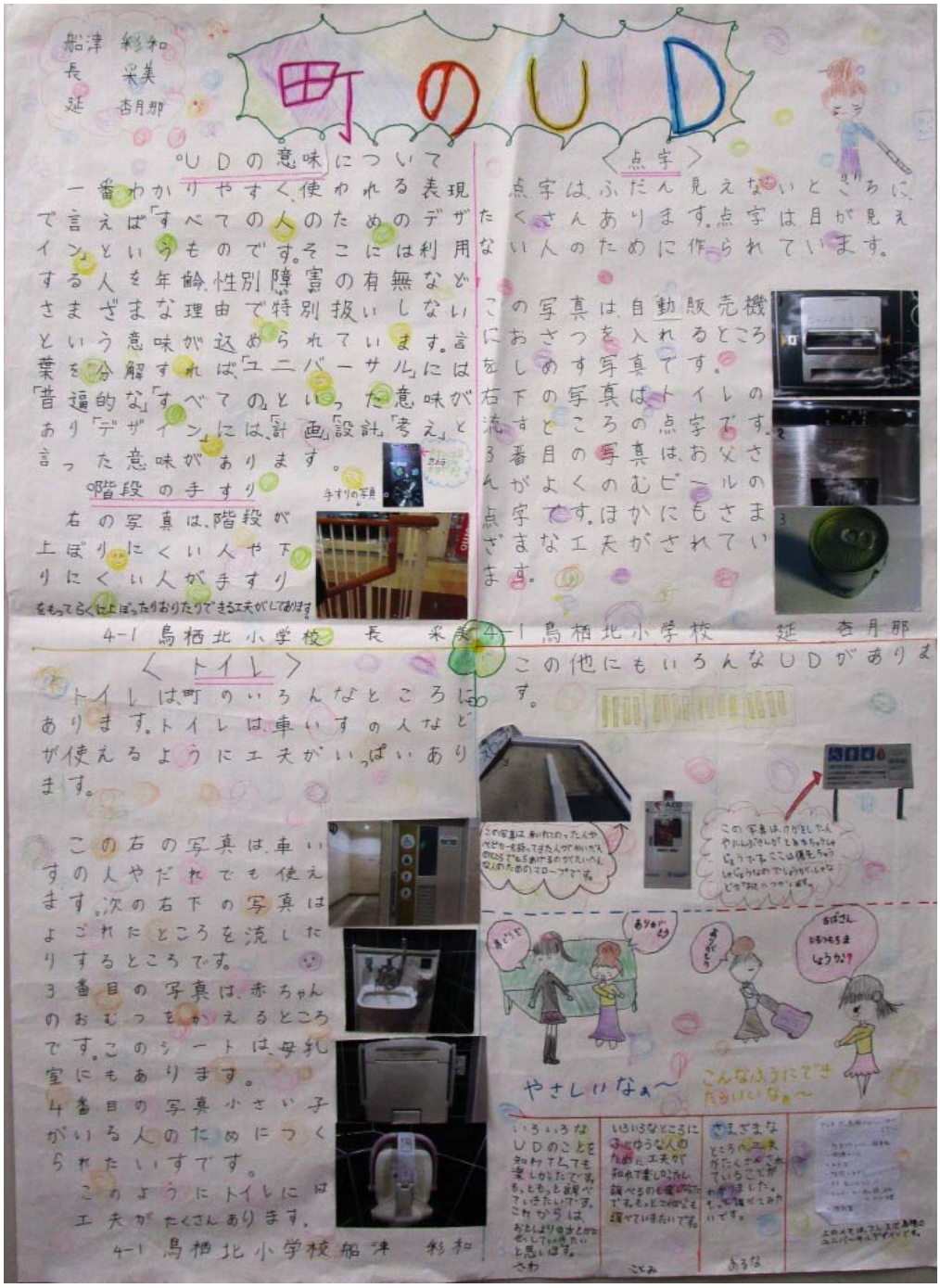
優 秀 賞　「針収納ピン」

佐賀県立小城高等学校　1年:辻（つじ） 采可（あやか）



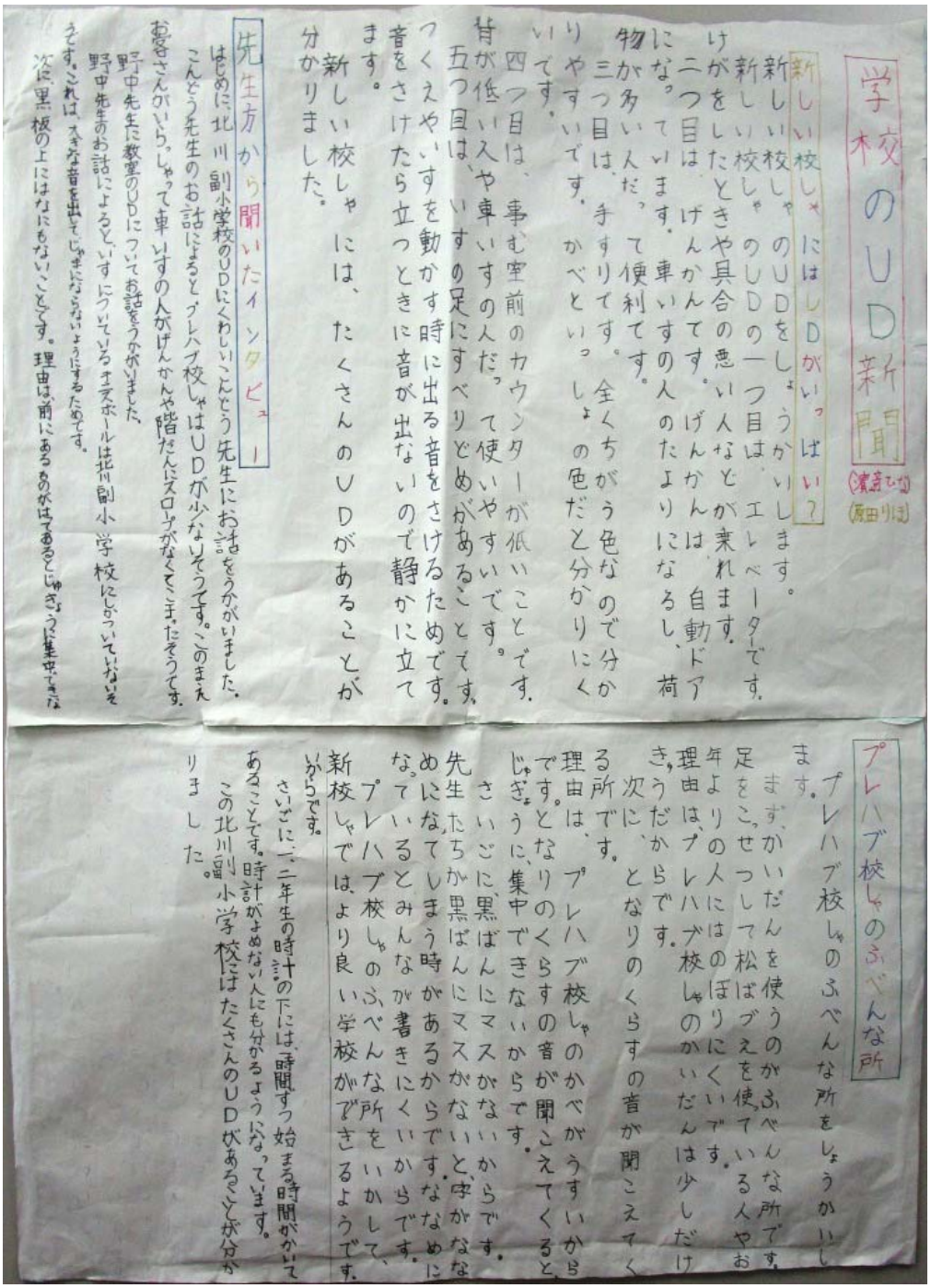
優 秀 賞　「町のUD」

鳥栖市立鳥栖北小学校　4年：長（ちょう）　采美（ことみ）
船津（ふなつ）　彩和（さわ）
延（のぶ）　杏月那（あるな）



優 秀 賞　「学校のUD新聞」

佐賀市立北川副小学校　4年：濱﨑（はまざき）　陽菜（ひな）
原田（はらだ）　莉帆（りほ）



学校のUD新聞

（濱崎ひな）
（原田りほ）

新しい校しゃにはUDがいっぱい？

新しい校しゃのUDをしょうかいします。
新しい校しゃのUDの一つ目は、エレベーターです。けがをしたときや具合の悪い人などが来れます。二つ目は、げんかんです。げんかんは、自動ドアになっています。車いすの人のたよりになるし、荷物が多い人だって便利です。三つ目は、手すりです。全くちがう色なので分かりやすいです。かべといっしょの色だと分かりにくいです。四つ目は、事む室前のカウンターが低いことです。背が低い人や車いすの人だって使いやすいです。五つ目は、いすの足にすべりどめがあることです。つくえやいすを動かす時に出る音をさけるためです。音をさけたら立つときに音が出ないので静かに立てます。
新しい校しゃには、たくさんのUDがあることが分かりました。

先生方から聞いたインタビュー

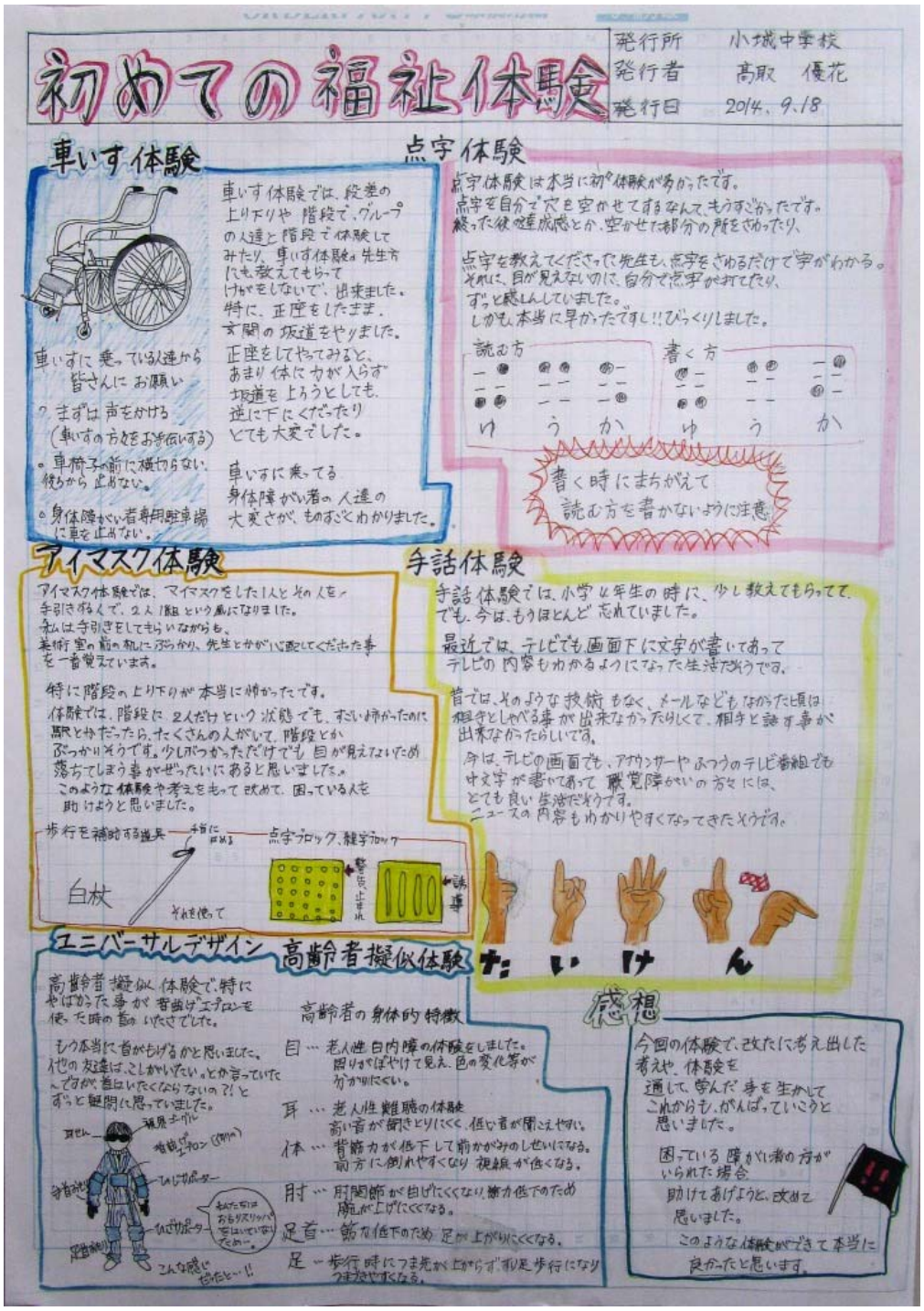
はじめに、北川副小学校のUDにくわしいこんどう先生にお話をうかがいました。
こんどう先生のお話によるとプレハブ校しゃはUDが少ないそうです。このまえお客さんがいらっしゃって車いすの人がげんかんや階だんにスロープがなくてこまったそうです。
野中先生に教室のUDについてお話をうかがいました。
野中先生のお話によると、いすについているキャスターは北川副小学校にがついていないそうです。これは、大きな音を出さないようにするためです。
次に、黒板の上にはなにもないことです。理由は、前にあるものがはっきりしてあるとじゅぎょうに集中できな

プレハブ校しゃのふべんな所

プレハブ校しゃのふべんな所をしょうかいします。
まず、かいだんを使うのがふべんな所です。足をこせつして松ばづえを使っている人やお年よりの人にはのぼりにくいです。理由は、プレハブ校しゃのかいだんは少しだけきゅうだからです。
次に、となりのくらすの音が聞こえてくる所です。理由は、プレハブ校しゃのかべがうすいからです。となりのくらすの音が聞こえてくるとじゅぎょうに集中できないからです。
さいごに、黒ばんにマスがないと字がなめになってしまう時があるからです。なぜなめになっているとみんなが書きにくいからです。
プレハブ校しゃのふべんな所をいかして、新校しゃではより良い学校ができるようです。
さいごに、二年生の時計の下には、時間ずつ始まる時間がかいてあることです。時計がよめない人にも分かるようになっています。
この北川副小学校にはたくさんのUDがあることが分かりました。

優 秀 賞　「初めての福祉体験」

小城市立小城中学校　1年：高取（たかとり）　優花（ゆうか）

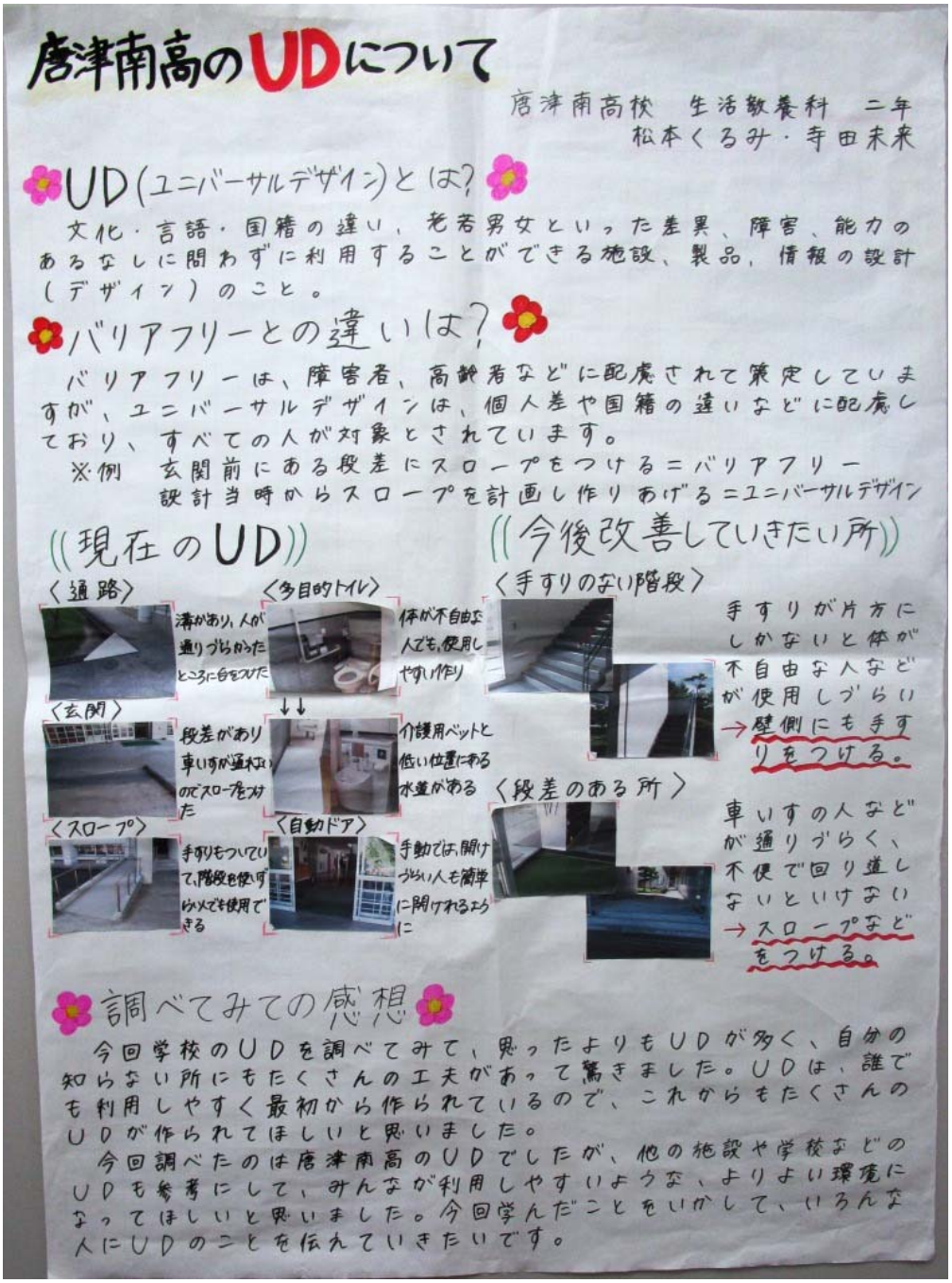


優 秀 賞　「誰もが快適に暮らせるために」

佐賀県立唐津東中学校　1年:渡邊(わたなべ)　鈴夏(すずか)

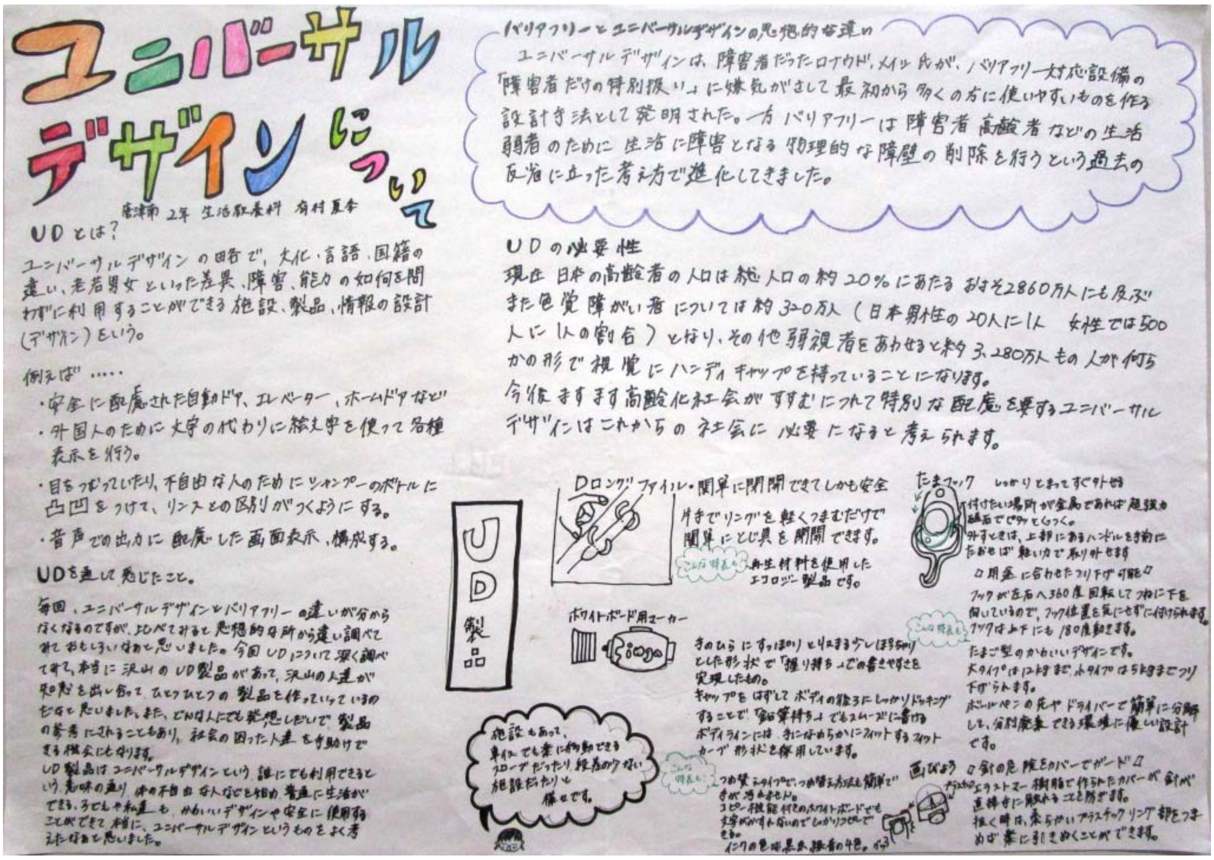
優 秀 賞　「唐津南高のUDについて」

佐賀県立唐津南高等学校　2年:松本（まつもと） くるみ
寺田（てらだ） 未来（みく）



優 秀 賞　「ユニバーサルデザインについて」

佐賀県立唐津南高等学校　2年：有村（ありむら）　夏季（なつき）



優 秀 賞　「世界でつながるUD」

伊万里市立波多津東小学校　4年:畑山（はたやま）　千寿（せんじゅ）

「ああー。なるほど。」

私は初めてＵＤのアイデア作品を見た時、とても感心しました。それは、今まで世の中には、あまりいい人ばかりいないと思っていたからです。なぜかというと、その時にあまりよくない悪いニュースがたくさん流れていたからです。だけど、世の中は、体のどこかが不自由な人が、私が知らないほどたくさんいます。でもそんな人たちのために、たくさんの小学生や、子ども達が、

「そんな人たちの役に立つかなあ。」

「もっとここを、こういうふうに工夫したら、使いやすくならないかなあ。」

などと考えていることに、私は、すごいと思ったのです。今の子どもは、家でゲームばかりしていると思ってばかりだからです。でも、みんなこんなに考えているのに私は、一回も考えたことがない。そして、とってもおもしろそうと、思えてきました。また、アイマスク体験もしました。その結果、目が不自由な人は、とても大変だとわかりました。そして、多くの、体の不自由な人も大変だとわかりました。そして、不自由だけど、みんなと同じようにくらしたいと思っているでしょう。そこで、ＵＤが、開発されて、それが世界に広がってとても楽になったとわかりました。でも、他にもまだ苦しむ人もたくさんいると思います。ですから私は、そのＵＤを知らない人に、ＵＤを教えてあげたいです。ＵＤはとっても便利で、相手のことをよく考えたものがたくさんあったから、知らないとそんをしそうだからです。

ＵＤはもともとはアメリカのロナルドメイスさんが提唱されたものが、全世界に、広まっているので、みんなが共感したということがわかりました。ＵＤは有名でいろんな国に広まっているのに、身近な家族たちは、ＵＤを知りませんでした。私は家族に、

「え。ＵＤ知らんと。ＵＤはね、体が不自由な人たちのために作られる、使いやすいアイデア作品よ。」

家族は、知っていそうで知ってない返事で、

「ふうん。」

と、いっていたので、私は、心の中で、

「ＵＤのすごさを教えてあげたい。」

と思いました。

私の曾祖父は、手が不自由なので、ＵＤの便利な商品を使ってもらいたいなあと、思いました。それと同時に、私もいろいろなＵＤの作品を、開発してみたいなあと思いました。

世の中がやさしさであふれていると、みんながすごしやすくなると考えました。アメリカからきた全世界への流れを、私ももっと多くの人に広めていきたいと思います。

優 秀 賞　「わたしたちのユニバーサルデザイン」

玄海町立値賀小学校　4年:小川（おがわ）　優羽（ゆう）

わたしは、三年生の時に初めてユニバーサルデザインを知りました。最初に「ユニバーサルデザイン」と言う言葉を聞いて、「何だろう？」と思いました。でも、いろいろ調べていくうちに「ユニバーサルデザインすごい。」「こんなユニバーサルデザインを作りたい。」と思うようになりました。

わたしの、おばあちゃんの家の近所の人はお年よりが多いです。目が悪い人や足やこしが悪い人もいます。そのことと、わたしが体験したことを思いだして五つのユニバーサルデザインを考えました。

一つ目は、「なんでもちゃんと見えるめがね」です。かけると、目が悪い人でもはっきり見えるようになります。二つ目は、「動く坂道」です。お年よりが歩くことは、けんこうでいいと思います。でも、道でたおれたりしたらたいへんなので動くのがあったらいいです。三つ目は、「耳が聞こえない人用のボード」です。耳が聞こえない人に話しかけてもよく分かってもらえません。なので、このボードは、いいたいことをペンで書けます。ボタンをおすと、消せます。四つ目は、エレベーターにいすがあったらいいと思います。エレベーターはべんりだけれどずっと立ったままだとつかれます。いすがあるとすわれて立っているよりもおちつけていいです。ふつうのエレベーターだと、少しせまくなるけど、それでもいすを一つか二つぐらいおいた方が少しは人が助かると思います。五つ目は、足が悪い人用のおふろです。足が悪い人は、おふろをまたぐ時はたいへんだと思います。このおふろは、ボタンが二つついていて、一つ目のボタンをおすと、おふろのふちがゆかの高さと同じぐらいになって、二つ目のボタンをおすと、おふろのゆかの三分の一ぐらいが、ゆかと同じぐらいの高さに上がります。二つ目のボタンをおす前に、上がるところにのっておけば、またがなくてすみます。

ユニバーサルデザインのことを考えて歩いてみるといろいろなところにユニバーサルデザインがあります。でも、まだくろうして生活している人がいると思います。わたしは、その人たちのたすけになるようなユニバーサルデザインをこれからも考えていきたいです。

優 秀 賞　「みんなのUD」

伊万里市立波多津東小学校　3年:井本（いもと）　匡亮（きょうすけ）

「すごいなあ。」よく思いつくなあ。

ぼくは、はじめてＵＤ作品をみた時にそう思いました。しかしＵＤってどんなことに使われているか分かりませんでした。

そして総合の時間にべん強するとはじめてどんなことに使うのかわかってきました。たとえば目の不自由な人、手や足の不自由な人、耳の不自由な人などだけではなく全世界すべての人が、かんたんに使えるということです。

ＵＤとは他に、だれでも同じように使える物、しっぱいしてもだいじょうぶな物、いろんな使いかたがある物、使い方がわかりやすくてつかいやすい物、むりをしないでも使える物、などがあげられます。

そしてはじめてぼくが自分で考えた物が音があまりでないつくえやいす、ぜったいにやぶれないティッシュ、一回でよごれた物をふけるティッシュなどの三つです。その時こんな物がつくれたらみんながすごしやすいだろうなと思いました。

また、ぼくは以前賞に入った人のＵＤを見た時に、

「ぼくもこんな風にアイディアを思いつきたいな。」

と、思いました。だからぼくはいっぱいべん強しました。その後、アイマスク体けんをしました。ろうかを歩いて、学校を一周しました。目の不自由な人は、こんなにつらいんだなとはじめて思いました。アイマスク体けんをする前は、

「ああかんたんそう。」

と、思いました。でも本当にしてみたら、物にぶつかりそうになったり、こけそうになったりしました。こんなきつい思いをして目の不自由な人はしているんだなとはじめて気づきました。

そしてできる事をさがしました。まず一つ見つかりました。それはあいさつでした。でも、目の不自由な方とは、声だけではなく、あくしゅをすればもっと分かりあえると思います。

おうだんほどうで目の不自由な人を見かけたら、

「あぶないですよ。」

と声をかけてあげたら目の不自由な人もうれしくなると思います。

これからぼくが目の不自由な人、耳の不自由な人、足や手の不自由な人を見かけたら、なにか手つだいができたらいいなと思います。

ＵＤというのはこんなに役にたつ物なんだなとあらためて思いました。

みなさんもなにかこまっている人をみかけたら、こどもたちだけではなく、大となの人もてつだえる事ができたらいいですね。

この作文を読んだ人は、不自由な人をみかけたら、声をかけ手伝ってあげてください。まずは、自分できることをしましょう。

優 秀 賞　「『ユニバーサルデザイン』を助ける」

佐賀県立唐津東中学校　2年:松尾（まつお）　由宇（ゆう）

日本には、たくさんのユニバーサルデザインがあります。もちろん、わたしが住んでいるまちにも、たくさんのユニバーサルデザインを見つけることができます。

でも、わたしたちは、そんなユニバーサルデザインに頼っていてもいいのでしょうか。

まちにある道路には、点字ブロックがついているところがあります。わたしが車で出かけたときに、その点字ブロックの横に自転車置き場があり、点字ブロックの上に自転車のタイヤが乗っかっているのを見ました。私はとても残念なことだなぁと思いました。これでは、目の不自由な方が通るときに、自転車にぶつかったりしてとても危ないです。せっかく人のために考えてつくられているものを、わたしたちが台なしにしてしまっているのです。

だから今からは、ユニバーサルデザインに頼る前に、一人一人が障害を持っている方や外国から来た方、お年寄りのことを気にかければ、その人たちはもっといい気持ちで生活することができると思います。ユニバーサルデザインがあっても、それを無駄にする人がいたら、意味がありません。

ユニバーサルデザインが取りこまれている公衆電話があるとします。でも、目が不自由な方は、その公衆電話のある場所が分からないので、困るかもしれません。そんなときには、周りにいる人が気付いて、助けてあげなければいけません。

このように、ユニバーサルデザインをもっと生かすためには、私たちが勇気を出して行動を起こしていかなければいけないときがあると思います。

やっぱり、みんなが助け合いながら生きるということがいちばん大切なんだとわたしは思います。そうすれば、みんながいやな思いをしないで生きることができる世界になると思います。

私のまわりには、あまり障害がある方や外国人の方はいませんが、もしどこかで出会って、その人が困っていたら、勇気を出して声をかけたいです。そして、まちを歩くときや公共の場所では、よくまわりを見て行動するようにしたいと思います。今はみんな、あまりユニバーサルデザインに関心はないかもしれないけど、これからどんどん広まっていけばいいなと思います。そして一人一人が思いやりの心を持って助け合える世界になればいいなと思います。

優 秀 賞　「身の周りにあるユニバーサルデザイン」

佐賀市立城南中学校　3年:山之口（やまのくち）　遥菜（はるな）

私は「ユニバーサルデザイン」と聞いて具体的にイメージすることができませんでした。実際自分がユニバーサルデザインを使ったものや施設を使っているかさえよく分かりませんでした。

「ユニバーサルデザイン」とは、文化・言語・国籍の違い、老若男女、障害、能力などを問わずに利用できる施設・製品・デザインのことをいうそうです。

身の周りのものを手に取ってみると、シャンプーとリンスの容器にはシャンプーしていて目をつぶっているときでも分かるように、手で押す部分と容器の横に印がついていました。電卓や電話、パソコンのキーにも特定の場所に印がありました。なのでブラインドタッチや目の不自由な方など、どんな人たちでも問題なく使えます。普段何気なく使っている、身の周りにも本当にたくさんあることが分かりました。

私にはユニバーサルデザインとバリアフリーに違いがあるのか疑問が生まれました。インターネットで探してみると、バリアフリーの対象は、障害のある人、お年寄りといった特定の方々ということでした。つまり、発案されたきっかけや背景が大きく違っているのです。玄関前にある段差にスロープをつけるのはバリアフリーの考え方です。ユニバーサルデザインでは設計時点からスロープを計画し作りあげることになります。結果として完成した入り口は全く同じ形になるのです。

バリアフリーでもユニバーサルデザインも、いろいろな人を対象に考えられてできているんだなと考えることができました。

また、つい最近、税について勉強する機会がありました。その中で税金で作られる公共物もバリアフリー化が進み佐賀県もトイレの改修に補助金を出す制度があるそうです。ユニバーサルデザインにしてもバリアフリーにしても、大切なのは作ることだけでなく、サービスを提供する人の心のやさしさや思いやりが不可欠なのだと思います。今でこそ「多くの方に使いやすいものを作ってあげよう」という考え方が少し前までは、ほとんど考えられていなかったことだったそうです。

私はユニバーサルデザイン・バリアフリーに共通する「心のやさしさと思いやり」の精神を持って「心のユニバーサルデザイン」「心のバリアフリー」を実行していきたいと思います。

優 秀 賞　「UDとは」

佐賀県立唐津南高等学校　2年:水鳥川（みどりかわ）　沙希（さき）

「ＵＤとは何か説明する時、あなただったらどのように説明しますか？」とよく質問されると、ユニバーサルデザインは全ての人に、バリアフリーは障害のある人に、と答える方が多いと思います。確かに、目的としては間違っていませんが、より分かりやすい違いはどのようなものか私なりに考えてみました。

まず最初に思い浮かんだことは、学校や駅、バスターミナル等で普段私が使っているＵＤについてです。駅の券売機のお金投入口が広い、エレベーターやトイレの表示が目立つ所に分かりやすくある、多目的トイレが広く使いやすい、点字ブロックや手すりがいろいろな所にある等、あまり気にせず、何気なく使っているものが多いのです。このように普段の生活に溶け込んでいて、当たり前のようで当たり前じゃないものがユニバーサルデザインだと思います。逆にバリアフリーは、優先席や身障者用駐車場、音響式信号、スペースの広い電話ボックス等、身障者の為だと分かるものが多いです。ユニバーサルデザインは誰が使っても当たり前の様に見え、バリアフリーは私たちのような健康な人が使うべきものではないのです。高校生になり、電車通学を始め、優先席に座る高校生を見かける事も多々あります。電車が混んでいる時本当に使わなければいけない人が使えなかったらどうなるだろうか。命に関わることもあります。それを分かった上で、ユニバーサルデザインとバリアフリーを使い分けていくべきだと思います。

最近は、バリアフリー住宅も増えてきました。何年経っても家族みんなが快適に住める家づくり。代表的な例として、浴室、トイレ、ろう下、玄関まわりに手すりをつける、段差をなくす、浴槽は、またぎやすい 40 センチ以下の高さ、立ち座りが楽な洋式トイレ、車椅子での移動ができるように、ろうか、玄関の広さは 78 センチなど様々な工夫をした家が増えてきています。

人を思いやる事のできる日本だからこそみんなが快適に暮らせるように、ＵＤをもっと活用していくべきだと思います。